

【令和 8 年度 第 1 回大山町総合教育会議】 議事録

日時 : 令和 8 年 5 月 2 5 日 (月) 午前 1 1 時～
場所 : 名和公民館 第 1 会議室
出席委員 : 山本健一、髙山洋美、高見法子、森田圭
欠席委員 : なし
町長 : 竹口大紀
教育長 : 坂下裕一
その他の出席者 : 教育次長 (浦木)、幼児・学校教育課長 (井上)、社会教育課長 (西尾)、
幼児・学校教育課 参事 (鷺見)、部活動コーディネーター (中嶋)
総合戦略課長 (金田弘)、総合戦略課担当 (種田)

参観人 : 2 人

【総合戦略課長】

令和 8 年度、第 1 回大山町総合教育会議を始めさせていただきます。

【町長】

本日は、令和 8 年度第 1 回となります大山町総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。今回の総合教育会議からは、教育長が新たに坂下教育長に代わり、また教育委員さんとしても新たに高見さん、森田さんにも加わっていただいている新たな形での総合教育会議となります。どうぞよろしくお願いいたします。本日の協議事項といたしましては、お手元に配布の次第の通りでありますけれども、新たな体制になりましたので、今年度以降の教育の方向性について皆様とともに意見を交わし、また方針を共有しながら進められたらと思っているところでございます。また、昨年度より取り組みを進めておりました小規模特認校のことでありますとか、以前から取り組みを進めております部活動の地域移行、様々な取り組みに関して皆様と共有をしながら進めていければと思っているところでございます。皆様から様々なご意見をいただきながら、大山町の教育環境をさらに充実させていきたいと思っておりますし、ここで育った子どもたちが大山町で学んでよかったな、育ってよかったなと思えるような環境作りをしていきたいと思っておりますので、引き続きのご協力よろしくお願い申し上げます。

【教育長】

5 月 12 日にこちらに着任してまいりまして、今日 14 日目になりました。
ちょうど 2 週間経ちました。まだ全然不慣れなことで、皆様方に色々ご迷惑かけていることと思いますけれども、こうした総合教育会議については、法律で定められている会

議でございますので、町長部局とそれから教育委員会が一緒になって地域の教育を支えていく、そういう体制になっております。そうした意味で、教育委員会としても連携を図りながらより良い教育の充実に努めてまいりたいと思っております。また、ご意見を教育委員会の教育行政に反映していくということを念頭に置いて取り組んでまいりたいと思っておりますのでございます。色々本当にわからないことだらけではありますけれども、1つ1つ着実に進めていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力、ご指導いただければと思っております。

協議事項

(1) 今後の教育の基本的方向について

【町長】

まず1つ目の、今後の教育の基本的な方向についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

【教育次長】

資料1をご覧ください。大山町教育振興基本計画を基本理念に掲げまして、令和8年度大山町保育所・小中学校の重点事項を1枚ものにまとめたものでございます。大山町は3本柱を掲げておりまして、保小中連携、英語教育の充実、ふるさとキャリア教育を重点に取り組んでおります。下書いてあるものは、それを下支えするものとなっております。そして、赤字で書いてあるところが今年度特にプラスしていっているところでございますので、ご確認いただけたらと思います。私から以上です。

【町長】

私の方から少し補足でご説明させていただきたいと思えます。これは教育委員会としての目標というよりも町としての教育目標という風に捉えていただけたらと思えますが、特に今まで3つの柱が、しっかり重要視しながらですね、特にその特色をどう出していくのかというところを前教育長の時代から取り組んできたところになります。英語教育の充実というところで、今日は傍聴で2名来ていただいておりますけれども、ALTの配置のことに关しまして、町内全部の小中学校、常勤のような形で配置をさせていただいて、授業の時だけじゃなくて、例えば休憩時間とか給食時間とか掃除の時間とか、いかなる時間でも英語に触れる時間を増やしていこうというような形で、ALTの全校配置というものもここ数年で取り組んできたところであります。また、GIGA スクール構想で整備をしましたタブレット端末を活用してオンラインの英会話等の取り組みですとか、また国際交流の関係でも、毎年テメキュラへの派遣をやっていたんですが、希望者が多くてですね、2年間しかチャンスがないところで希望して、

どれだけ優秀な子でもなかなか向こうの受け入れのキャパがある問題で行くことができない子供がいるという課題がありました。そんな中、今年で3年目の取り組みになりますけれども、ハワイの私立学校と協定を結んで2週間派遣事業をするというようなことをしまして、意欲があって、また試験に合格した生徒に関しては、みんなに海外の経験、現地で英語に親しむという経験を積んでもらえる、そういう環境を作ってきたところでもあります。

その他、英検が受けやすい環境整備ですとか様々な取り組みをしておりまして、英語教育の充実というものを本当に長年取り組んできた結果で、特にその県下の中学校の中でも、大山町内の3つの中学校の中学3年生の英検3級取得レベルの割合というものが全国平均より毎年高いという状況になっています。

特に、平均的には10ポイント近く高くて、全国平均が大体5割前後で毎年推移しているところを、大山町は大体6割ぐらいで推移しているというような状況であります。これは短期的なところで言いますと、高校の入試等にも役に立つ部分もあるますし、また、中長期に関しましては、その子供たちの人生設計の上での役に立つというようなところから充実を図ってきているところでもあります。

それから、ふるさとキャリア教育の中で、様々なその地域の魅力について勉強する機会、あるいはその教材を作ったりだとかいうことで取り組みを進めてきておりますが、これらに関して、郷土愛が身につくとかいうようなこと、それから自分の地域を深く知ることができるというようなことで非常に大きな成果が出ているかなという風に思っておりますが、私からの提案というところもあるんですけれども、ふるさとキャリア教育をベースにしながらも、もう少しその探究学習のような分野を拡充できないものなのかというところを考えております。

自分たちの地域を深く知るために様々なことを調べたりしていくというのは探究学習の1つなんだと思うんですけれども、それをもっと広く探究学習を広げないといけないのかというところを考えております。

以前に、前の教育委員さんには、県内でも特にその探究、各種の取り組みが進んでいる鳥取市の青翔開智中高一貫校に視察に伺ったこともあります。やはり青翔開智は高校までありますので、大学の入試の際に役に立つような探究学習というようなことを取り組んでおられて、また、大学の入試だけではなくて、その先の人生においての子供たちの能力としてその探究学習が役に立つ、そういうような、短期的に見ても中長期的に見ても役に立つような教育ということで探究学習をされていました。

大山町としましても、全国的に、公立中学校で体験学習を充実強化しているような例も見受けられますので、これは高校入試にも役に立つような話に結びつけることはできると思っておりますし、何よりも、子供たちのこれからの人生においてプラスになるものだと思っておりますので、ぜひ探究学習、どこに位置づけるかというのは別としましても、探究学習の充実みたいなところがあればいいかなという風に考えているところ

であります。

次に、教育環境の充実整備ということで、GIGA スクール構想のさらなる充実ということで書いてあります。特に、その GIGA スクール構想で整備しましたデジタル端末に関して、アナログの教科書がデジタルに置き換わりました。例えばその教科書、持ち運びが軽くていいですよとか、そういう面ももしかしたらあるのかもしれませんが、デジタル端末を整備する本来の趣旨というのは、ただアナログのデジタルに置き換えるではなくて、デジタル端末を整備しないとできない教育を提供していく、それから、なかなかアナログの教材では理解しにくいものをデジタルを使ってイメージをしやすくするんですとか、様々なやり方があるんだと思っています。

この GIGA スクール構想で整備された端末等の活用について、例えば子供たちの勉強がもっとはかどるようにアプリを活用するだとか色々な方法があるんだと思いますが、こういったところを充実させることによって、大山町の教育環境、まだまだ良くできるのかなという風に思っております。この教育環境の充実整備というところの GIGA スクール構想の部分もしっかり取り組みが展開できればいいかなという風に思っています。私からの今説明については以上でございます。事務局から説明がありました内容や私からお話をさせていただいたことにつきまして、皆様の方から何かご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

【森田委員】

英語教育のところでちょっと不明点がありまして、お伺いできればと思います。まず1つが、主目的と言いますか、1個に絞ることは難しいと思うんですけども、特色ある教育の確保ということで、大山町のブランディングとしてやっぱり必要なものなのか、子供の視点で必要なのか、裾の土台的にリテラシーみたいなものも含めて育てていくってことなのか、もう少しハイスペック化を目的としていくのか。

先ほどの英語力の平均値みたいなもトップを上げるっていうこともあると思いますし、もっとボトムにいる子たちの力を上げていくってこともあると思います。その辺がどこに重点が1番あるのかなっていうところを1つまずお伺いしたいと。

続けてもう1つなんですが、そうした時に、ハワイの留学が、結構議論になりやすいポイントかなと思っています。これがもちろん悪いわけでもないわけじゃないんですけども、この辺りはちょっと自分が全体の予算感覚っていうのがまだ把握していなくて、お伺いできればと思うんですが。

例えばこう、ハワイの語学留学っていうのは、どちらかというと意欲的な感じで、イメージ的にはトップを引き上げるっていうイメージが持つんですけども、そうした時に、出ない子たちとか、支援にあたる部分だということのを先に充実してくれっていうような意見とかもあるんじゃないかなと思ったりしたりします。先ほども委員会ありましたけど、教職員の方の負担だったりとか加配だったりとか、そういったことに予算を回

してくれみたいところが意見としてあるのではないかと思います。ただ、留学にかかる費用が 100 万円×8 で 800 万円としたので、それがそんなにそ全体の予算としては大きいもんじゃないってことなのかもしれないですし、ちょっとその辺りお伺いできればと思います。

【町長】

まず、英語教育の充実の目的というところで、今まで大山町として取り組んできたところですけども、おっしゃっていただいたように、子供たちの教育のためというのが主目的だと思います。ただ、そういった特色ある教育をやっているんだったら、大山町で教育を受けさせたいとか、大山町に移住して子供を通わせたいとか、そういうニーズがあるのかと。ですので、結果的にブランディングのような形になるものはあると。これは全ての取り組みで必要になるんですけれども、ただ、主目的としては、やっぱり子供たちの英語力をしっかり上げていくというところだと思っています。

その中でトップを引き上げるのか、あるいはベースを底上げしていくのかみたいところですが、これもですね、どちらかだけという感じではなくて、両方になってくるのかなと思っています。能力の高い子がそれ以上に学ぶ環境がないっていうのは、これ日本型教育の中で欠点だと言われてる部分だと思っています。意欲があればどんどん学んでいけるという環境を作るということは、英語に限らず必要な環境整備という風に思っていますので、英語の部分では特にこういった形で取り組みをしているところです。

海外の留学事業に関しては、確かにトップを引き上げるというところもあると思いますが、例えば、英語そんなに得意ではないけどもちょっと海外に興味があるような生徒がいた場合に、やっぱり実際に行ってみたらものすごくモチベーションが高くなって、英語学習の意欲が高まるということはあるという風に思っております。ですので、トップを引き上げるための目的だけではなくて、事業としては全体の生徒のモチベーションを高くしていくというところがある。留学授業に参加した子供だけではなくて、その帰ってきた子供たちからのフィードバックによって、影響を受ける生徒も少なからずあるというところで、効果を広げていくような取り組みというのは、意識的にこれまでの教育委員会の方で、あるいは学校現場の方でもやっていたいているということです。

予算感に関しましては、800 万円が高いのか安いのかというところもあるんですが、テメキュラ交流事業に関しても、やっぱりその旅費だとか 2 週間程度滞在するための費用というのは同じようにかかるんですが、ハワイに関しては、その私立学校にお金を支払うと。そのサマーキャンププログラムの代金というものがありますので、その部分だけが少しテメキュラの交流に比べたら経費としては高い部分があるのかなという風に思っています。

元々その 3 年間でまた事業検証して今後どうするかというところを考えていくということで、今年が 3 年目ということになりますので、今年の事業を実施した上で今後ど

うしていくのかというところを検討するということになると思うんですが、以前からハワイとで大山町の民間野球の交流であったりアート交流であったり様々な交流がされているところで、今回の私立学校との協定というものを結んだところではありますが、さらにその交流の輪が広がってきておりまして、その私立学校とだけではなくて、それ以外で、例えば中学校同士の交流事業ができないかというようなお話を先方のハワイ郡議会の副議長さんが大山町に来られた時にそういった話もされておられました。それを受けまして、来月ですね、こちらからも私を含め何人かが現地に行ってそういったところの意見交換をしようかなと思ってまして、私立学校の交流ありきではなくって、他に同じような内容で、もう少し経費を抑えた形で、充実した形で留学事業ができないのかというところは、引き続き模索はしていきたいなという風に思っているところでございます。

【森田委員】

英語教育に関して、全体的な平均値のポイント的なところもあると思いますし、今の意欲的なところは、ちなみに分かればいいんですけど、アップダウンがあったみたいなものはあるのでしょうか。留学も含めて、全体的な意欲、モチベーションにも関係してくるってところが、アンケートみたいなものであるのか、体感的にあるのかみたいなところがもしわかれば教えてください。

【教育次長】

アンケートは行った生徒にはとっておりまして、とてもみんなやっぱり意欲が上がったとか、2学期からのモチベーション上がったとか出てます。高校に入った後も引き続き英検を受け続けてどんどん上がっていると聞いております。

その周りの子たちのアンケートとなると、学校が持っておりますので、今即答はできないんですけども、またお伝えできると思います。

【町長】

その他、何かありますでしょうか？

【教育長】

もうこの3本柱をすでに決めて取り組んでもらうってことなので、この3本柱、方向性に沿ってそれを押し進めていくということに今のところは尽きると思っております。

5月11日まで文部科学省の教科書課にありまして、デジタル教科書法案を今国会で審議していて、衆議院はGW前に通過し、参議院は来月早々に審議という過渡期の状況です。今までは紙の教科書をそのままデジタルに変えたものをデジタル教材という形で、

これは国が委託費という形で、英語や算数・数学について、国が有償で購入し提供しておりました。これからは、紙のみならず、音声や動画など紙ではできないデジタルの良さを生かした部分についても、教科書検定を行って無償給与にするという形で、国の方でもデジタルの良さを生かした教材の環境関係の充実に取り組んでおります。

なので、本町におきましても、そうした方向性を受けて、さらにICTの活用を伸ばしていければと考えています。例えば端末持ち帰りも、頻度はともかく、実施はされているということですが、その頻度もそうですし、あるいは持ち帰って何をするかといったこともありますでしょうし、そうした色々な形で普段使いできるよう取り組んでいきたいと思っております。

【町長】

探究学習についてもご意見やご質問があれば伺いたいと思います。

【兜山委員】

大山小学校では4年生の時に大山レンジャーという取り組みで自分たちの地元の興味ある歴史や鳥や花だっりに班ごとに取り組んで、自分たちでどんどん進めていくんですけど、なおかつ自分だけが知っているではなく、観光客の方に向けて写真とかを見ながら案内するみたいな取り組みをしています。ボランティアガイドをされる方とかっていうのがすごく不足しているような気がしていて、子供たちが自分の言葉で一生懸命そのガイドをすると、もちろん歩かれてる方もすごく一生懸命聞いてくださいます。子供たちも、自分が興味を持って取り組んで調べたものについては、今でももちろん覚えてますし、自分たちで声をかけて案内して喜んでもらえたっていう体験もすごくいいと思います。今度はそこに、インバウンドのお客様に対して英語で説明ができるっていうようなこともどんどん交えていったら、その3本柱、どんどん進んでいくんじゃないかなと思っています。

【町長】

探究学習の出口として、英語を絡めていくだとか、そういうことも考えたら面白いんじゃないかという、まさにその通りだなと思っていますし、本当に自分たちの地元のこととかに関して探究していくと、結果的に自分たちの地元の範囲で収まらないような関連することにどんどん、どんどん繋がっていくわけですから、探究学習としては幅はどんどん広がっていくのかなという風に思っているところです。

ありがとうございます。

【山本委員】

探究学習は多分、レベルが色々あって、青翔開智の場合は、中学生の頃から下地を作って、高校がさらに3年間あるので、高校3年生ぐらい覚えてるっていう感覚でやりますし。

で、うちの娘が通い出した高校なんかは、高 1 ぐらいに軽く下地で、高 2 でしっかり探究して、高 3 で発表みたいな 3 年計画でやりますし、その辺の出口をどこに求めて下地・準備・発表みたいな順番を上手に計画していければうまくいくかな。

以前の小学校のイメージでいくと、小学 6 年生が学習発表会で発表するような。

この地域の活用良くしていくにはみたいな場合とか、あとは中学校で最近やっているふるさと単語みたいなものを探究学習に消化させていくみたいな形。

その辺りを上手に組み込めればうまくいくかもしれませんが、その辺の授業時間をどう確保していくかっていうのが課題かなと思います。

【町長】

はい、ありがとうございます。その授業時間というところは検討の中で、いろんなやり方があると思いますので、そこは何かが見つけられればなと思ってますし、あとは、ただ単に探究学習です、はいやりましょうみたいなことではなくて、しっかりこう、プロセスですね、積み上げていくっていうのも大事だ、またそこも検討を進めていければと思っております。

【高見委員】

探究学習で言うと、例えば中山小学校で言うと、3 年、2 年、1 年生から社会科であちこち地域に出て行き、3 年生ぐらいから例えば梨農家さんに行って作業を見て手伝って、そこから選果場に行って丸合にも行って流通を全部見て回って、その発表を見てると、わりかし個人個人で色んなところに着目してこれを質問して喋りましたみたいなことをやっているんですけど、これが探究の第 1 歩なのかなという印象があって。探究学習って本当に勉強の醍醐味なところがあると思うので、なんかその下地というか、そういうやり方を少しずつ社会とか生活科で学びながら、ふるさとのことに関しても、例えば英語に関してもそういうアプローチができるかもしれないし、探究学習のやり方で勉強の楽しみを少しずつ段階的に知ってもらえたらいいなと思います。

英語教育に関していろんな意見はあると思うんですけど、やっぱり海外に行けるんだとか、友達が行ったなら自分も行けるかもって近くに行った人がいるってだけでも、意味があるように思うので、予算の問題とかはあるとは思いますが、どんな形であれ、海外と閉鎖的にならないように繋がるといいなと思います

（2）大山小学校小規模特認校制度導入について

【教育次長】

資料 2 をご覧ください。大山小学校の小規模特認校の方針、特色についてを 1 枚まとめさせていただきました。大山小の今後の新入生の入学は大体 5 人前後ずつになっていきます。そうしますと、令和 10 年に 2 学年で 1 クラスを作るという複式学級になる予定になっ

ております。複式学級がいけないっていうわけじゃないんですけども、どんどん、どんどん減っていく中で、やっぱり規模特認校制度という制度がありまして、それを導入して大山小の児童を増やしていき、活性化させていきたいと考えております。

それで、その1枚ものには、じゃあ大山小に来てもらうには町内から来てもらう、どうしようかっていうのを事務局で作戦を立てまして、やっぱりわかりやすい特徴、特色を出すっていうところが大事だなと思っております。2本の柱を立てました。先ほど兜山委員さんからもありましたが、やっぱり大山の恵み、教育というのはずっと受け継がれておりまして、そこにあるのは大山小だけでしかやってない魅力的な取り組みをげ矢印であげております。課題も点々の中に挙げております。その中で、やっぱり大山保育所のとの連携も大事だなというところ挙げておりまして、大山保育所も人数が少なくなってますし、建物も老朽化しております。ぜひ、小学校と連携して特色ある取り組みをしていきたいというところがございます。

で、2つ目の柱が、大山町の3本柱にもあります英語教育、これをちょっと町内よりモデル校的にリードしていけたらなというところがございます。英会話の授業、ALTによる授業、オンライン会話は一緒ですが、先ほどは大山町版イマージョン教育としてたんですけども、ここはイマージョン教育として、例えば音楽とか図工とかの教科をALTが主になってと言いますか、一緒に一部英語で行っていけたらどうかというところになります。

また、大山小学校放課後も英語の時間を作っていただいて、で、ALTによる英語での活動をしていますので、毎日、ALTとの時間が少しでもあるよっていうことをアピールしていけるかなということ、学校行事でも英語で体験活動ができていけたらなと思います。課題としましては、ALTがT1で主でやってもらえればいいんじゃないかという意見もありますが、このT1で授業を行うためには、県の教員採用試験に合格するというハードルがありまして、できたら英語免許を持った小学校教員がいますので、そういう人ももしここに来ていただけるなら集めて、ちょっと町内をリードして取り組んでもらえたらなというところです。ピンクのところは小規模特認校制度について書いてあります。町内のどこの学校からでも修学を認めるもの。あと、スケジュールは青いところに書いておりまして、夏休みには保護者説明会をしたいなと思っておりますので、来月末の教育委員会では要綱を制定していきたいなと思っております。私からは以上です。

【町長】

こちらはちょっと補足ですが、その特色ある教育をしていかないといけないと思いますが、1つは、その大山小学校がこの先数年後には複式学級になってしまうかもしれない。そうなってくると、どうしても統廃合だとかという話になってくると思うんですけども、そうなる前に何か打つ手がないのかというところで検討しているところです。したがって、その町内の他の小学校から通ってもらうというのも、それはそれでいいと思うんですが、そうは言っても、例えば中山小学校なども児童の数は少ないですか

ら、そこからどんどん通ってもらおうと今度は中山小学校と同じ課題に出てしまうというのもありまして、できればその町外から大山小学校で子供を教育受けさせたいなと思ってもらえるようなぐらいの特色ある教育感情ができればという風に思っているところでもあります。

で、左側の大山の教育の中の課題の中で、大山保育所との連携というのが書いてあります。この小学校だけだと特色化ということではなくて、今、大山保育所が県の自然保育認証を受けておりますが、特に大きく目立って特色のある状況を作り出せていないというのが現状でありまして、元々この県の自然保育認証というのが森の幼稚園だとかを想定した施設型ではない保育を認証するというものですけれども、これを大山保育所が認証取得しているということから、もう少し森の保育園のような形で、自然保育等に思い切って振り向けていくというようなことができないか。あるいは、その小学校との繋ぎというところと言えば、大山保育所の英語に触れる環境をもう少し増やしていけばいい、そういうことを踏まえた上での大山保育所との連携というところでもあります。これは、最初の教育目標のうち、保小中連携にも当然関わってくる部分だと思っていますので、大山保育所の取り組みというところも重視しながらやっていければと思っています。

皆様の方から何かご意見等ございませんでしょうか。

【高見委員】

先ほど次長が T1 として授業を行うためには県の教員採用試験に合格する必要があるということだったんですけど、ちょっと私の認識が違ってたら申し訳ないんですけど、今先生方が不足していて、定年退職された先生に声がかかったりが結構あちこちで現在行われてると思うんですけどその方は T1 授業できないですか。

【教育次長】

そういう方たちはできますけど、ALT が授業をするためにはってことです。これは鳥取県の制度ですよ。

【教育長】

今ここで想定してる T1 は特別免許状ということで、教員免許を持っていない方が都道府県教育委員会が特別に許可を出して教壇に立てるようにするものです。

基本的に教壇に立つというのは、車の免許と同様に、教員免許がないと教壇に立てないという整理にはなっています。

一方で、ゲストティーチャーの場合は ALT もそうですけれども、教員が指導する、計画立てる、評価するという前提のもと、それをサポートする補助的な形で参加するという形で実施されています。ここで課題として記載しているのは、単独で授業ができるという意味での特別免許状の付与の可能性ということで、鳥取県については普通免許状を有しない社会人

についての教員採用試験を合格する必要があることと、それから、教員検定基準という形で、一定の能力、資格を有していること、教員免許は持っていないけど、それと同程度以上のことができるということクリアする必要があるという基準を作っていて、その 2 つをクリアしないと、単独で授業できる T1 にはならないということでもあります。先ほどご指摘いただいたところは、教員免許を持っている人が定年退職後に再任用や雇用延長されるケースだと思いますが、ここでの記載は教員免許を有しない方が単独で授業を持てるようにするための課題を言いたかったということです。

（３）大山町部活動地域展開・地域連携推進計画について

【中島コーディネーター】

資料 3 をご覧ください。この部活動改革は、教員の働き方改革、それから少子化ということからスタートしております。令和 4 年に最初に国の方から域移行しなさい、地域移行という名称が出てきました、そして、3 年後、昨年ですけども、令和 7 年になってから、今度は地域展開、展開という名称に変わりました。つまり、地域移行は、これは学校から部活動を切り離して地域にお願いするということです。地域展開になったら、これはこの 3 年間の反省があったらどうなるかわかりませんが、学校も地域も一緒になってやりましょうという意味合いで変わってきました。変わってきたというか、最終的には地域にお願いしようと展開するという方向になってきてます。これを踏まえて県の方も推進計画を作っております。そして、大山町もやっとなんとなく、実際には 4 月に作っておりますけども、ガイドライン、推進計画作成しました。また確認してください。資料 1 ページ目の右のグラフは大山町の年度別出生数を表したものです。0 歳から中学 3 年生までのものをここに並べております。少子化、またこれ、後で 8 年後という言葉が、キーワードが出てきますけれども。3 ページ目、大山町の方針で、これを、国、県の方針を踏まえて、大山町の方針です。ちょっと 3 ページ訂正があります。1 番上の改革推進期間前期、改革推進期間後期とありますが、これ実行です。大山町は 8 年後に極端に子供の数が減っちゃいます。その時に慌ててもいけませんので、今からこの 8 年後をイメージしながら取り組んでいこうということで、1 番下のこの表が大山町の当面のこの 3 年間、改革実行期間前期にあたる令和 10 年までの方向性ですけども、まず部活動は残しましょう。ただ、民間クラブに加入してる子は自由にします。休日に関しては、部活動、部活動指導員をつけていくという方向で考えております。さらに、合同部活動拠点校の部活動をこれも推進していこうということで、やがてそれが地域クラブ化になっていけばいいのかなということです。それと、積極的に合同部活動をしていく上では、1 番欠かせないのが、この部活動移動バス。本当に大山町にお世話になって、すごく好評です。保護者、生徒、教員から評価されてされております。

この部活動バスを利用して合同練習休日になりますとしております。さらに、最終的には部活動を自由にしたいと思います。そのためには受け皿がないことにはいけませんので、こういった公民間、地域、あるいは民間クラブも含めて、団体、受け皿を今発掘してるところで

す。

今、若干 2 つ 3 つ準備もできておりますので、そういった方向で、当面はこの 3 年間、前期ですね、この方向で進んでいきたいなと思っております。

以上です。

【町長】

ありがとうございました。ただ、今の説明に関しまして、皆様から何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。おそらく細かい話は定例教育委員会で話されていると思いますので、次に進みます。

（４）大山町立学校教職員に関する業務量管理、健康確保措置実施計画について

【教育次長】

資料 4 をご覧ください。大山町立学校教職員に関する業務量管理、健康確保措置実施計画を令和 8 年 4 月に作成いたしましたので、この会議でもご報告させていただきたいと思えます。昨年度の法改正によりまして、法律の義務教育小学校との教育職員の給与等に関する特別措置法に新たに設けられました第 8 条第 1 項に規定する業務量管理健康管理措置実施計画の策定に取り組むとともに、この情報を総合教育会議等への報告の仕組みを通じて、学校の現状や課題を関係者と共有し、相互に連携協働しながら取り組みを実施し、検証、改善を重ねていただくようお願いしますというも文科省からの通知がありました。そこで、大山町も作成しまして、4 月の定例教育委員会で皆様にもご承認いただいております。これを受けまして、各学校でも、今、各学校バージョンを作成して学校運営協議会で承認を得ていうところがございます。また、今はちょっと計画を立てましたという報告だけです、じゃあ、今後、そどうなったかとか、数値がどう改善されたかを、またこの総合教育会議でご報告させていただけたらと思っております。

私から以上です。

【町長】

ありがとうございました。ただ、今の説明に関しまして、皆様何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。ないようでして、私から 1 つだけ言及させていただくところとしては、やっぱり業務量の管理や見直しというところでは、特にその残業時間をいかに少なくしていくのかというところがかなり主要な取り組みになるんだと思っております。それによって、ストレスレベルも低くなっていくということがありますし、今本当に全国の先生方と残業時間がまだまだ多いような課題でありますから、そういったところの見直しをしていくというのは必要だと思います。その上で、先生でなければできない業務とそうじゃない業務をしっかりと分けるとか、あとは先ほどのお話の部活動の地

域と一緒に展開していくとか、そういうことをしつつもですね、やっぱり古くから学校現場に染みついているような残業文化みたいな、確かに業務量が多いのかもしれませんがけれども、中には帰りにくい部分もあるかもしれないですし、これ残業してるのでやればいいかなという時間管理されているところも、全部ではないかもしれませんが、あるんだと思っています。

役場も同じで、大体役場も多いんですけれども、大山町役場においては、この9年間で、毎年の残業時間見直しをしながら、昨年度は1か月あたりの職員1人当たりの残業時間が5.8時間ということで、相当残業がないような状態になってきています。人によってとか、時期によっては残業は当然発生するんですが、平均しますと1か月あたり1人5.8時間いうようなところに圧縮できました。これはやっぱり、そのノー残業デーも元々なかったのなんか、水曜日に設定して、朝から声掛けをしてとにかく定時で帰ろうということを取り組んだら、意外と取り組みが進行して、今だと水曜日と金曜日で週2日しておりますし、あとは、上司がいると帰りにくいみたいな雰囲気もあるっていうのが職員の面談の中では結構出てきたんで、上司に率先して帰ってもらうように、最近ちょっとあんまり声がけしてないですが、当時よく声かけしていました。

ぜひ、学校現場ではですね、業務量の多い部分の見直しというのは当然しながらですね。残業が無駄に長くないような取り組み、文化、それから習慣、こういったものをちょっと変えるような取り組みもぜひ取り組んでいただけたらなという風に思っているところです。皆様の方から会議全体を通じて何かございますでしょうか。では、時間も参りましたので、以上で令和8年度第1回大山町総合教育会議を閉会したいと思います。本日は誠にありがとうございました。